



D-600

驚異の 2ch ハイパワー・コンパクトヘッド
2-ch、450w(4Ω)、Digital Power Amp for Bass



■価格：オープン 実勢価格 ¥92,400 (本体価格 ¥88,000) 専用ギグバッグ及びラックマウントキット付属 ■JAN: 4580228393567
■入荷時期：平成 23 年 7 月

< D-600 Spec >

2ch, 600W(2Ω) 450W(4Ω) 300W(8Ω), 2xInput, 2xMini Sw.(Mute/Low/High), 2xInput Level, 2x5-Band EQ、Comp-Limiter with on/off sw. and level volume, Aux. In with Level Volume, Headphone Out, Line In, Master Volume, (Back Panel: D.I. Out, Tuner Out, Preamp Out, FX Send & Return), Size: 300(W) x 75(H) x 250(D)mm, Weight: 3.0kg



池田達也氏 製品レポート

製品発売に先駆け、
Session Bassist の池田達也
氏に D-600 の試奏をして頂
きました。

正直申しまして、D-600 のサ
ウンドを実際に聞くまでは、
見た目の印象や同じデジタル・

アンプという事で PJB の小型軽量アンプヘッド D-200 と同じ傾向の
サウンドなのだろうかと、過度な期待を寄せていなかったのですが、
想像を遙かに超えるハイ・クオリティなサウンドと完成度の高さに
大きく予想を裏切られる結果となりました。

以前よりフィル・ジョーンズ氏が 2チャンネル仕様のデジタル・ア
ンプヘッドを開発中である事は伺っていましたし、プロトタイプが
NAMM ショーで発表され、その登場を “首を長〜く” して待ち望ん
ていたのは僕だけではないでしょう。

今回、実際に音を出してみても、「待っていた甲斐があった！」と素
直に嬉しく思ったと同時に、何度も改良を重ねられ、満を持しての
発表である事が伝わってきて、エンジニアとしてのフィル・ジョー
ンズ氏のポリシーにも感服した次第です。

出力が増した事とも関係するのですが、サウンドにスピード感
があり、先述した D-200 と比べ細かなニュアンスのピッキングに対
する追従性、俊敏性が格段に向上しています。ロー・レンジのみな
らず、ミッド・レンジも豊かで、大型で重量のあるチューブ・

アンプに通じる “ブリッ” とした感じのハイ・ミッド・レンジあた
りの心地良い鳴り方は、僅か 3kg の重さのデジタル・アンプという
事が信じられないほどです。サイドから垣間見えるブルーの光が、
まるで未来のチューブの様にすら思えてしまいました・・・。(笑)
豊かなミッド・レンジのせいか、フェンダーなどのパッシブ・ベー
スとの相性が良く、PJB の誇るクリアーでクセの無いサウンドは例
外なく継承されています。

PJB のフラッグシップ・アンプヘッドの M-500 が音に妥協を許さな
いハイエンド・オーディオ的だとするならば、可搬性にも優れた
D-600 はよりカジュアルなアンプだと言えるでしょう。M-500 は 3
バンド・パラメトリック EQ に加え、12 バンド・グラフィック EQ
も装備され細密なサウンド・メイクが行える反面、ビギナーに対
しては操作性の難しさも否めなかったのですが、D-600 では 5- バンド
EQ による直感的なサウンド・メイクが行えるでしょう。

D-600 は、AUX・イン、ライン・イン、ヘッドフォン・アウトと、
入出力端子の充実度に加え、それらがフロント・パネルに装備され
ている操作性の良さも魅力的です。バックパネルにはエフェクト
ループや D.I. アウトに加えて、ブリアンプ・アウトも装備されてい
ますから、リミッターを備えた 2チャンネル仕様の高品位ブリアン
プとしてパワード・キャビネットの PB-300 等と組み合わせる使用
も可能なのが嬉しいですね。小型軽量かつハイパワーというのが、
近年のアンプ・ヘッドのトレンドですが、充実した入出力端子に
よる用途の広さという点では、先発されている同系統のアンプ・ヘッ
ドの中でも群を抜く存在だと言えるでしょう。

僕自身、これまでも PJB の独創性、先進性を感じてきましたが、
D-600 という新たなホープの登場により PJB への愛着度や信頼度が
更に深まりました。

やっぱり、お世辞抜きで僕は PJB が好きですね！

